

## UNMIN勤務を通じて

3月13日に東京を離れ、早半年が経ちました。私たち軍事監視要員6名は、ここネパールにおいて国連ネパール政治ミッション（UNMIN）の軍事監視業務を行っております。不慣れな生活環境、文化および習慣に戸惑いながらも、日々、ネパール社会を肌身で感じております。また、国際色豊かな国連勤務を通じて、さまざまな国の軍人や現地スタッフと接し、日々、貴重な経験をさせていただいております。

4月初旬に初めて現地のキャンプに到着した頃は、日中の最高気温が42度まで上昇し、陽にあたると肌がヒリヒリするほどの、とても暑い気候でした。7月頃から雨が多くなり暑さと湿気のため、とても蒸し暑くなります。マラリアを媒介する蚊がいたるところに飛び回ります。そして、現在、気候は少しずつ涼しくなり始め、秋の訪れを感じているところです。

ネパールは、現在ほとんどの国民がヒンドゥー教徒ですが、もともと仏教の祖、ブッダの生まれた地でもあります。ネパール各地にヒンドゥー教の寺院もあれば、仏教の寺院もあります。ネパールの人々はそれぞれの寺院を互いに訪問し、また、お互いの宗教を尊重しあっており、うまく共存しております。

また、ネパール料理はインド料理ほど辛口ではなく、日本人の口に合う食事が多く、現地スタッフの作ってくれる料理を美味しくいただいております。

日々の軍事監視業務においては、ヨーロッパのルーマニア、南米のブラジル、ウルグアイ、東南アジアのマレーシア、インドネシア、アフリカのナイジェリアなどの国々の軍人とともに勤務をしてきました。経歴や経験の差はありますが、同じ軍事に携わる者としての考え方や行動規範を共有でき、親近感を覚えます。その反面、国際社会と日本社会の違いを痛切に感じることもあります。特に、お互いの文化、習慣、宗教を理解しあいつつも、自分の意見は、はっきり主張しなければなりません。

UNMINにおいては、過去の日本の軍事監視要員の勤務ぶりは非常に高く評価されており、我々3次隊もとても期待されているところです。新しい生活にも少しずつ慣れ、日々悪戦苦闘しながらも、本国の方々からのご支援、ご声援をいただき、元気に勤務しております。決して気を緩める

ことなく、何事もなく6名全員が整齊と任務を完遂し帰国できるよう、日本代表として精一杯頑張っていこうと思います。



遠藤隊長とネパールの子どもたち

2009年9月11日

軍事監視要員 2等陸佐 遠藤 祐一郎